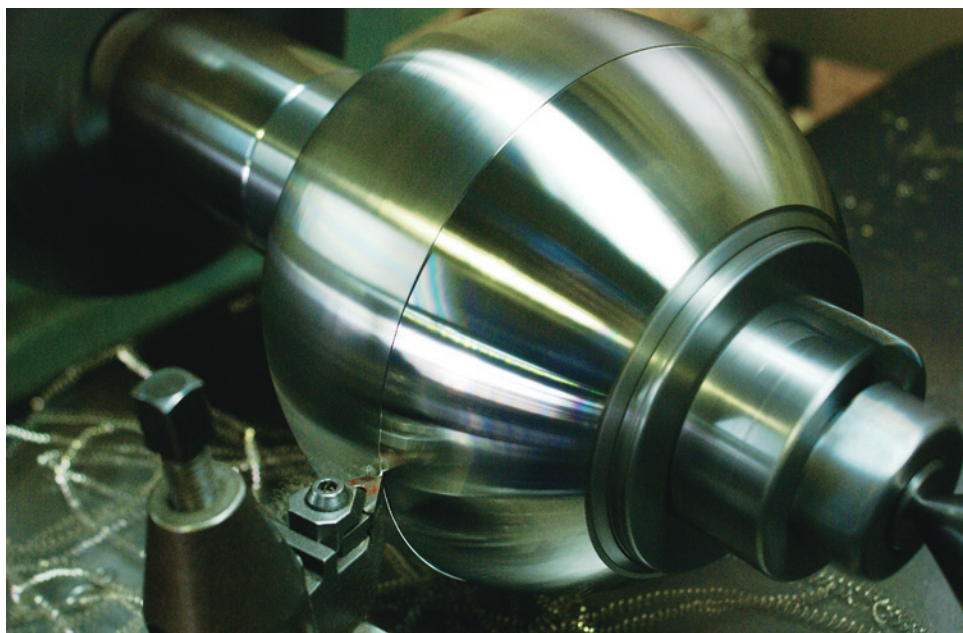


木田バルブ・ボール 株式会社

ボールバルブの心臓部
バルブボールを一貫生産

海外発注可
期 納 談
企 画 力
自 信 有
コ ス ト 相 談
オンリーワン技術
メイドインジャパン
試作可
小ロット
量 産 対 応



自社開発機による球体切削加工

業務内容

40年以上にわたって
バルブボールを製造

石油パイプラインや食品製造プラント等、さまざまな配管に採用されているボールバルブの内部で、流体を制御するのがバルブボールだ。木田バルブ・ボールは創業まもない40年以上前からバルブボールに特化。国内産のボールバルブに使われるステンレス製バルブボールではシェア約6割を誇っている。

同社の特色はバルブボールの素材加工から切削・研磨・検査まで、一貫して自社内で行っている点。三重県伊賀市にある工場で素材の鍛造から手掛けしており、同工場ではその鍛造技術を活かして、配管接手部品等のバルブ関連部品や鉄道部品も製造している。

強み

さまざまなサイズやロットに
柔軟に対応

「我々の強みの一つはステンレスに特化してきたことです」と木田社長。バルブボールの素材はステンレス、铸铁、真ちゅうに大別されるが、同社は事業開始当初から、難削材であるステンレスに挑み、球面切削・研磨加工の技術を蓄積してきた。さらに、ハステロイ・インコネル・ステライト・タングステン等、その他の難削材についても技術を持つのが強みだ。

同社の加工精度は真球精度1μm以下、表面粗さ精度Ra0.03。この高い球体加工技術を活かして、最近では人工股関節の部品等にも同社の球体製品が採用されている。

同社では球面加工専用機も自社で開発、φ4〜1200mmまでのあらゆる

サイズのバルブボールが生産でき、単品から量産まで柔軟に対応する。試作や球面加工のみも可能だ。さらに、バルブボールの鍛造素材や半加工品も豊富にストックすることで、低コスト品を即納できる体制も整えている。



大型球体加工機による研磨加工

海外進出

台湾メーカーと提携
中国でも生産を開始

平成21年からは台湾のバルブボールメーカーと提携。技術指導と品質管理を行って、現地生産品の輸入・販売をスタートさせた。これによって、標準的なロット品については、より低コストでの供給が可能になった。

さらに平成23年には中国に現地法人を設立。広大な中国市場に向けたチャレンジが始まっている。

今後の展望

ワールドワイドな
マーケット開拓を目指す

もともと同社はオイルショック後の1970年代以降、欧米を始め諸外国への輸出を積極的に展開していた時期があった。昨今はほぼすべてが国内市場向けだが、再び世界に販路を求めたいと考えている。一昨年、中国進出を果たしたのも海外への足がかりをつくるためだ。「もう一度世界を相手に、我々のバルブボールを売っていくのが最終的な目標です」と木田社長は語る。

COMPANY PROFILE

木田バルブ・ボール株式会社

大阪24

当社の歴史

祖父の代は専業農家でしたが、次男である私の叔父が機械加工の事業を起し、次いで長男である父（現会長）も農業を経て、同じ道に入りました。創業から3年後、バルブボールの粗加工の下請けを始めて、この分野の将来性を確信。以来バルブボールの製造・販売を展開してきました。今後もバルブボールに専心して、広く海外に打って出ていきたいと思っています。

“球体一筋”の道を歩み、これからは世界を視野に入れて前進します。

代表取締役 木田 浩史さん



■主な事業内容

ステンレス製ボールバルブ用
分体ボールの製造・販売、配
管継手部品・鉄道部品等の熱
間型打鍛造品の製造・販売 等

■主な取引先（納入先）

バルブメーカー、配管継
手メーカー、ポンプメー
カー、医療関連器具メー
カー、化学系商社 等

住 所／〒578-0932
東大阪市玉串町東
3-1-36
T E L ／072-963-2441
F A X ／072-963-5812
創 業／昭和39年6月
設 立／昭和47年12月
資本金／4,500万円
従業員／94名

<http://www.kvb.jp/>